

FY2023 3Q

Financial results
briefing

決算説明会資料

～2023年3月期 第3四半期～

2023/1/31

日本ハム株式会社



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

3Qに入り食肉・海外事業を取り巻く環境が激変。加工事業も主カブランドの回復が遅れたことで事業利益は前年差△171億円*の大幅減益となった

(加工事業)

3Qに入りシャウエッセンの販売は回復基調にあるが、価格改定を行った主カブランドの回復が遅れ計画を下回った。

(食肉事業)

フード営業は着実に回復しているが、輸入食肉の国内需要が減退し販売価格が下落。高コストの輸入食肉在庫が収益を圧迫し、計画を大幅に下回った。

(海外事業)

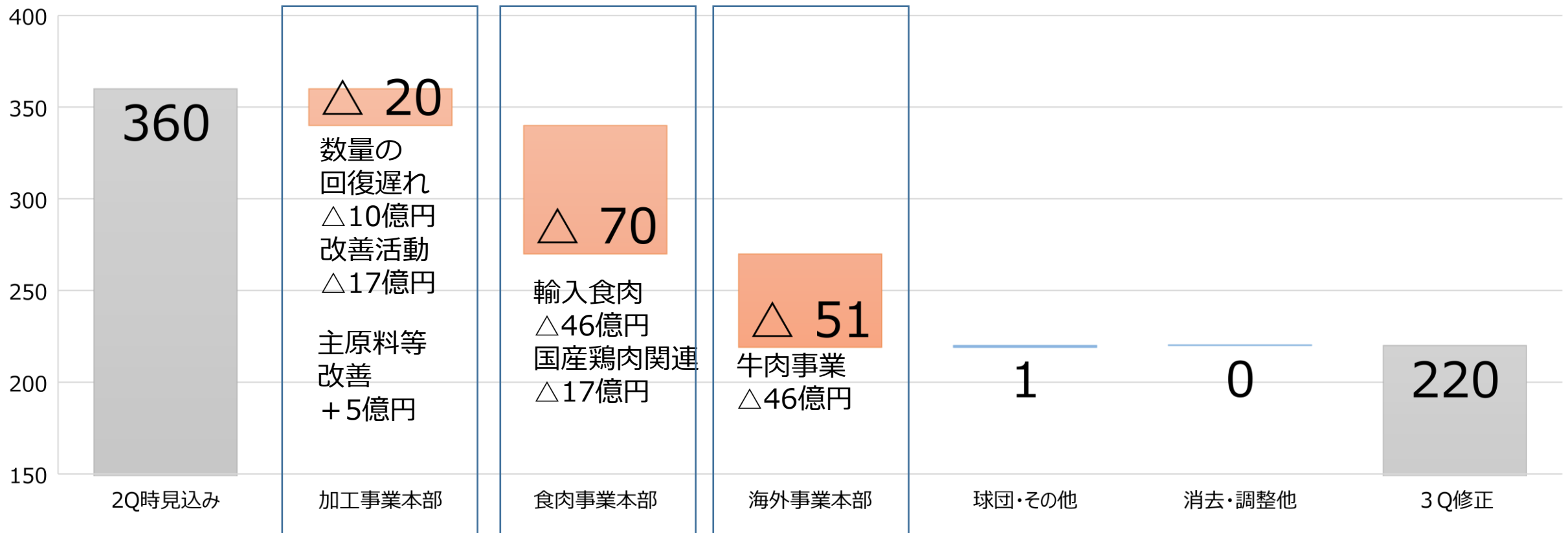
北米加工品の価格転嫁や販売数量拡大による牽引はあったが、主に牛肉事業における販売価格の下落が想定以上に大きく、計画を大幅に下回った。

※マリンフーズ株式会社及び同社の子会社などに関連する水産事業を除く

三度の下方修正を重く受け止め、構造改革の必要性を再認識
スピード感を持って収益構造の見直しを図り、来期の事業利益は400億円
の水準まで回復させたい

(単位：億円)

2023年3月期通期見込み



CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

※ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。

※ 当社グループは、事業活動を通じて獲得する利益をより明確に示すことを目的として、2020年3月期の連結業績予想から従来の営業利益に替えて、事業利益（売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除し、当社グループが定める為替差損益、IFRSへの調整及び非経常項目を調整して算出）を開示しております。

※ 四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

※ 前期の売上高、税引前利益、事業利益は、株式譲渡したマリンフーズ株式会社及び同社の子会社などに関連する水産事業を除いた継続事業の金額を表示しております。

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

1. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q累計実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	6,340	3,521	9,861	900	10.0%
事業利益	152	95	247	△ 194	△44.0%
内) 継続事業 事業利益				△ 171	△40.9%
事業利益率	2.4%	2.7%	2.5%	△2.2%	-
税引前当期利益	223	29	252	△ 239	△48.7%
親会社に帰属 する当期利益	155	37	192	△ 175	△47.7%

3Q累計 前年差増減要因

(売上高)

国内・海外における各畜種の単価が上昇したことで10.0%増収

(事業利益)

加工事業の主力ブランドの販売数量の回復遅れ、輸入食肉の需給バランスの悪化、海外牛肉事業の収益性の悪化で44.0%減益

(税引前当期利益)

事業利益や営業外収益の減少等で48.7%減益

(親会社に帰属する当期利益)

税引前利益の減少が影響し47.7%減益

1. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
加工事業本部				△ 81	△57.5%
内) 継続事業	13	47	60	△ 59	△49.4%
食肉事業本部	142	83	226	△ 79	△25.9%
海外事業本部	△ 9	△ 17	△ 27	△ 49	-
球団・その他	19	△ 7	12	14	-
消去調整他	△ 13	△ 11	△ 24	1	-
連結計	152	95	247	△ 171	△40.9%

3Q累計 前年差増減要因

加工事業本部

価格改定に起因する販売数量の回復遅れや主原料・副資材・電燃料の高騰が影響し減益

食肉事業本部

下期に入り輸入食肉の国内需要が減退し、高コストの在庫が収益を圧迫。国産鶏肉も鳥インフルエンザにより生産量が減少し減益

海外事業本部

下期に入り牛肉事業が相場高により需要が減退。原材料高と高コストを販売価格に十分に転嫁できず減益

球団・その他

プロ野球の観客動員数が前年を上回ったことで増益

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

2. セグメント情報 加工事業本部①

3Qに入り価格改定による単価上昇も進んだが、主力ブランドの回復遅れや電燃料高騰のカバーが出来ず減収減益

2023年3月期実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	2,040	1,168	3,208	△ 620	△16.2%
内) 継続事業				△ 49	△1.5%
事業利益	13	47	60	△ 81	△57.5%
内) 継続事業				△ 59	△49.4%
事業利益率	0.7%	4.0%	1.9%	△1.8%	-

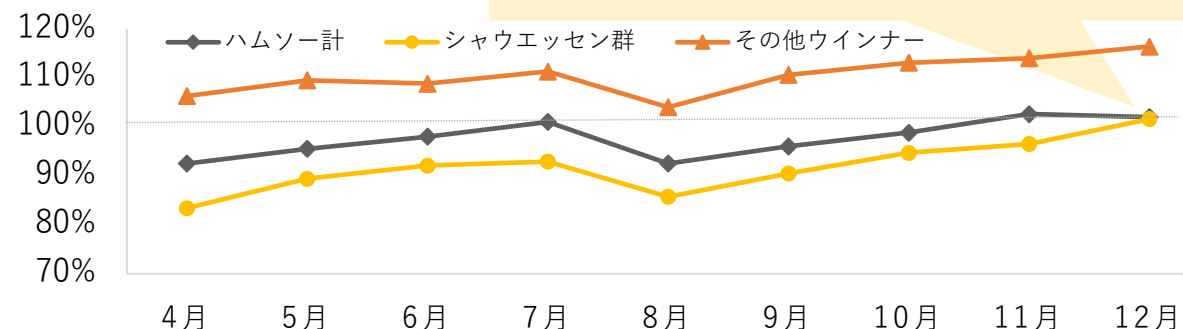
チャネル別/コンシューマ商品別 3Q累計売上実績 (前年比)

ハム・ソーセージ	数量	金額	ハム・ソーセージ	金額	デリ商品	金額
コンシューマ計	95.5%	97.7%	ウインナー群	96.1%	チルドベーカリー群	102.7%
業務用計	102.3%	104.6%	ロースハム群	109.3%	チルド惣菜群	90.1%
デリ商品	数量	金額	ベーコン群	104.9%	フライドチキン群	99.5%
コンシューマ計	89.7%	97.6%	焼豚群	104.0%	ハンバーグ・ミートボール群	102.7%
業務用計	95.5%	103.7%	コンシューマ計	97.7%	コンシューマ計	97.6%

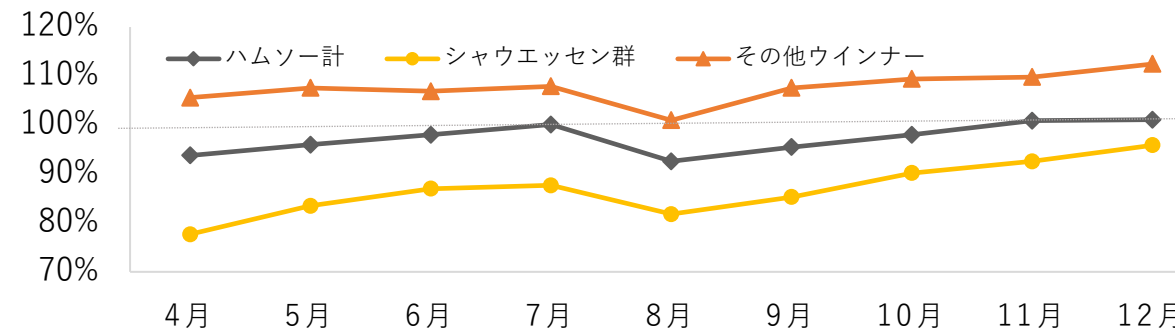
3Q累計 コンシューマ商品売上実績

- ・ハム・ソーセージ：シャウエッセンの回復が遅れ減収
- ・デリ商品：中華名菜群が規格変更後も数量回復に至らず減収

売上推移 (金額)



売上推移 (個数)



3Q累計 業務用商品売上実績

- ・ハム・ソーセージ：CVS向けの販売を強化し増収
- ・デリ商品：ファストフード向けの販売が好調に推移し増収

事業利益増減要因分析

(単位：億円)

	上期実績	3Q実績	累計実績
ハム・ソーセージと デリ商品事業	△39	△13	△52
外部要因	△61	△43	△104
主原料価格	△25	△18	△42
副資材・燃料等	△36	△25	△61
内部要因	22	30	52
価格改定効果	14	29	43
改善活動	8	1	9
乳製品・水産と エキス・一次加工品事業	1	2	4
DX費用	△8	△3	△11
合計	△45	△13	△59

※マリンフーズ株式会社及び同社の子会社などに関連する水産事業を除いた継続事業との前年差を比較

前年差異要因分析（3Q累計）

【ハム・ソーセージとデリ商品事業】 △52億円

（外部要因） △104億円

主原料：全畜種の原料価格が高騰

副資材・燃料等：主に羊腸や包材、電燃料が高騰

（内部要因） 52億円

価格改定効果：2回の価格改定で販売単価の上昇が進むも、数量の回復遅れや品種構成の悪化で外部要因のカバーには至らず

改善活動：高生産ラインへの製造集約や人件費の削減で増益

【乳製品・水産とエキス・一次加工品】 4億円

チーズ：業務用チーズの売上が好調で収益を確保

ヨーグルト：価格改定を行ったバニラヨーグルトの販売数量が回復せず、収益が悪化

エキス・一次加工品：高利益商品の販売が伸長し収益を確保

3. セグメント情報 食肉事業本部①

輸入食肉や国産鶏肉の販売単価上昇で増収も、高コストの輸入食肉在庫が収益を圧迫。鳥インフルエンザも影響し減益

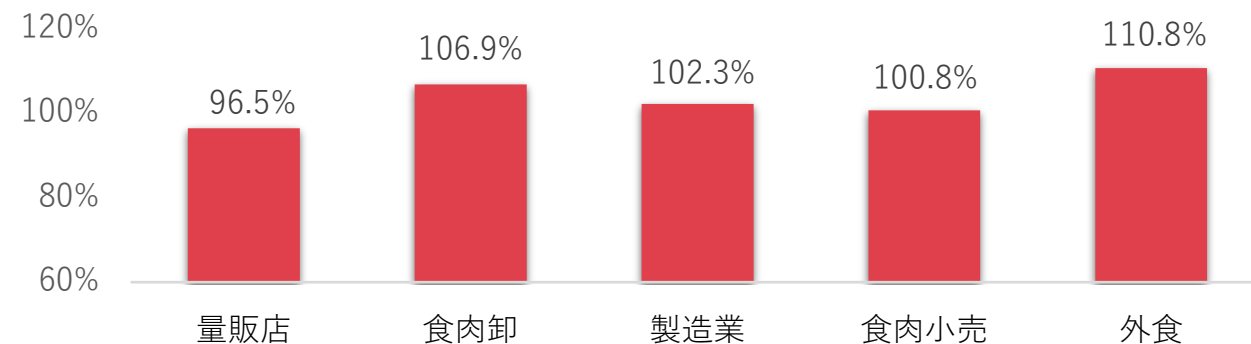
2023年3月期実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	3,617	2,085	5,702	475	9.1%
事業利益	142	83	226	△79	△25.9%
事業利益率	3.9%	4.0%	4.0%	△1.9%	-

累計チャネル別売上数量実績（前年比）

2023年3月期 フード4社の売上数量実績
全体の数量伸長 100.9%



3Q累計 畜種別売上実績

- ・牛肉：国産牛肉の販売拡大と輸入牛肉の単価上昇で増収
- ・豚肉：輸入の冷凍豚肉が外食の回復で好調に推移し増収
- ・鶏肉：節約志向による他畜種からのシフトで需要が堅調に推移し増収

3Q累計 チャネル別売上実績

- ・量販店：外食の回復や牛肉・豚肉の販売価格の高騰で鈍化
- ・外食：新型コロナ前の水準には至らないものの、都市部を中心に需要は回復基調

3Q累計 和牛輸出ビジネスの拡大

- ・為替影響も追い風となり、新規開拓が進展
(和牛輸出量 前年比118%)

事業利益増減要因分析

(単位：億円)

	上期実績	3Q実績	累計実績
国産牛・豚事業	△3	0	△2
国産鶏事業	△21	△7	△28
輸入食肉事業	△21	△40	△60
フード販売	14	8	21
DX費用	△9	△4	△13
その他	4	△1	3
合計	△36	△43	△79

3Q累計 昨年差異要因分析

【国産牛・豚事業】 △2億円

生産部門：飼料価格の高騰や生産性改善の遅れで減益

荷受部門：輸入食肉の高騰で国産シフト。価格転嫁も進み増益

【国産鶏事業】 △28億円

生産部門：飼料価格の高騰や鳥インフルエンザの影響で減益

荷受部門：外部調達強化で販売数量を確保し増益

【輸入食肉事業】 △60億円

下期に入り国内需要が減退し価格転嫁が進まず収益を圧迫。

加えて入船遅延によるサプライチェーンの混乱により機会損失が発生し減益

【フード販売】 21億円

販売：量販チャネルは節約志向による需要減退も収益性の向上施策を実施。

外食チャネルの回復にあわせた販売拡大施策や、専門部署の取り組み強化を進め増益

フード4社利益（前年比）



4. セグメント情報 海外事業本部①

豪州の牛肉販売数量の増加や単価上昇により増収も、飼料コストや生産・製造コスト高、人件費の増加を補えず減益

2023年3月期実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	1,693	813	2,506	513	25.7%
事業利益	△ 9	△ 17	△ 27	△ 49	-
事業利益率	-	-	-	-	-

3Q累計 地域別売上実績

【豪州事業】

オーストラリア：上期は販売が好調に推移し増収

ウルグアイ：前期の上期に発生した中国向け牛肉禁輸が解消し、輸出量が増加したことで増収

地域別売上高実績内訳

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
豪州	703	347	1,050	269	34.5%
オーストラリア	531	256	787	195	33.0%
ウルグアイ	173	91	264	74	39.2%
米州	630	320	951	198	26.3%
アジア・欧州	378	149	527	49	10.2%
合計	1,693	813	2,506	513	25.7%

外部顧客売上高実績

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
豪州	618	315	933	259	38.3%
オーストラリア	465	233	698	190	37.3%
ウルグアイ	153	82	235	69	41.5%
米州	175	85	259	67	35.1%
アジア・欧州	175	73	249	56	28.9%
合計	968	473	1,441	382	36.0%

【米州事業】

加工品：製造数量の拡大と価格改定が進み増収

輸出：南米からの豚肉輸出が好調に推移し増収

【アジア・欧州事業】

アセアン：前期のコロナ影響が軽減され需要が回復し増収

トルコ：国内の物価高騰で鶏肉販売単価が上昇し増収

※売上高は、セグメント間取引の消去があるため、海外合計と各地域の合算は一致しません。

4. セグメント情報 海外事業本部②

事業利益増減要因分析

(単位：億円)

	上期実績	3Q	3Q累計
豪州	△11	△31	△41
オーストラリア	△4	△21	△25
ウルグアイ	△7	△9	△16
米州	△2	3	1
アジア・欧州	△2	△5	△7
その他	△1	△1	△2
合計	△16	△33	△49

事業利益

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
豪州	△5	△18	△23	△41	-
オーストラリア	9	△11	△2	△25	-
ウルグアイ	△14	△7	△21	△16	-
米州	4	7	11	1	5.7%
アジア・欧州	△3	△4	△7	△7	-
その他	△5	△3	△8	△2	-
合計	△9	△17	△27	△49	-

3Q累計 昨年差異要因分析

【豪州事業】 △41億円

(オーストラリア) △25億円

生体価格の高値が続いたことと、輸出販売価格が低調であったため減益

(ウルグアイ) △16億円

生体価格の高値が続いたことと、輸出販売価格が低調であったため減益

【米州事業】 1億円

(加工品)

2Qより価格改定が進み収益性は改善したが、1Qの影響が残り減益

(食肉輸出)

豚肉輸出が好調に推移したことで増益

【アジア・欧州】 △7億円

(トルコ)

飼料・製造コストの高騰が続き、販売単価への十分な転嫁が進まず減益

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

1. 計画ハイライト①

2023年3月期通期計画

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期			
	通期実績	2Q見込	3Q見込	前年差	増減率
売上高	11,744	12,700	12,700	956	8.1%
事業利益	481	360	220	△ 261	△54.3%
内) 継続事業 事業利益	458			△ 238	△52.0%
事業利益率	3.9%	2.8%	1.7%	△2.2%	-
税引前当期利益	514	350	220	△ 294	△57.2%
親会社に帰属 する当期利益	480	260	170	△ 310	△64.6%

前年差増減要因

(売上高)

2Q見込み通りの8.1%の増収

(事業利益)

下期を通して加工・食肉・海外事業の各セグメントで減益となることから、通期事業利益も220億円に下方修正

(税引前当期利益)

事業利益や営業外収益の減少等で57.2%減益

(親会社に帰属する当期利益)

税引前利益の減少等により64.6%減益

1. 計画ハイライト②

想定を上回る外部環境の変化もあり大幅な下方修正となるが、スピード感をもって収益構造の見直しを図る

2023年3月期事業利益計画及び計画差異

(単位：億円)

	上期		3Q	4Q	下期				通期			
	22年3月期実績	実績	実績	見込	22年3月期実績	2Q見込	3Q見込	見込差	22年3月期実績	2Q見込	3Q見込	見込差
加工事業本部	59	13	47	△ 5	65	62	42	△ 20	124	75	55	△ 20
食肉事業本部	178	142	84	34	178	188	118	△ 70	356	330	260	△ 70
海外事業本部	6	△ 9	△ 17	△ 23	18	10	△ 41	△ 51	24	1	△ 50	△ 51
球団・その他	4	19	△ 7	△ 25	△ 20	△ 33	△ 32	1	△ 16	△ 14	△ 13	1
消去・調整他	△ 16	△ 13	△ 11	△ 8	△ 14	△ 19	△ 19	△ 0	△ 30	△ 32	△ 32	0
合計	231	152	95	△ 27	227	208	68	△ 140	458	360	220	△ 140

セグメント別事業利益計画

加工事業) 外部環境やシャウエッセンの販売状況は回復しつつも、3Qまでの影響が残り2Q計画を下回る見込み

食肉事業) 外食の回復等による販売拡大を見込むが、輸入食肉需要の想定以上の減退、需給バランスの悪化によって2Q計画を下回る見込み

海外事業) 想定以上に牛肉の輸出販売価格が下落したことで、豪州事業を中心に大幅に2Q計画を下回る見込み

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

2. 2023年3月期計画 加工事業本部

2023年3月期通期計画 事業利益55億円

チャネル別/コンシューマ商品別通期売上計画（前年比）

ハム・ソーセージ	数量	金額	ハム・ソーセージ	金額	デリ商品	金額
コンシューマ計	96.7%	98.7%	ウインナー群	97.8%	チルドベーカリー群	102.5%
業務用計	98.3%	100.2%	ロースハム群	108.8%	チルド惣菜群	88.8%
デリ商品	数量	金額	ベーコン群	104.9%	フライドチキン群	100.6%
コンシューマ計	90.6%	96.9%	焼豚群	105.3%	ハバーグ・ミートボール群	104.8%
業務用計	92.2%	98.9%	コンシューマ計	98.7%	コンシューマ計	96.9%

利益計画 増減要因分析

（単位：億円）

	下期			通期		
	2Q見込	3Q見込	差異	2Q見込	3Q見込	差異
ハム・ソーセージと デリ商品事業	0	△23	△23	△39	△61	△23
外部要因	△88	△83	5	△149	△144	5
主原料価格	△40	△34	7	△65	△59	7
副資材・燃料等	△47	△49	△2	△83	△85	△2
内部要因	88	61	△27	110	82	△27
価格改定効果	69	59	△10	83	73	△10
改善活動	19	2	△17	27	9	△17
乳製品・水産と エキス・一次加工品事業	3	4	1	4	5	1
DX費用	△6	△4	2	△14	△12	2
合計	△4	△23	△20	△49	△69	△20

主な取組み

（コンシューマ商品）

- 回復基調にあるシャウエッセンの販促施策を継続。大袋や新商品によるエクステンションを行い、早期の販売個数の回復を図る
- モーニングサブ等の新商品の拡販により粗利益を確保する
- 中華名菜群のリブランディングを行い、来期の回復を図る

（業務用商品）

- 高利益商品となる重点商品の販売を強化し粗利益の確保を図る

通期 利益計画差増減要因分析

【ハム・ソーセージとデリ商品事業】 △23億円

（外部要因） 5億円

- 主原料：牛肉、豚肉の調達環境が想定より改善する見込み
- 燃料等：LNG等が想定より悪化し計画を下回る見込み

（内部要因） △27億円

- 価格改定：主カブランドの数量回復に至らず計画を下回る見込み
- 改善活動：来期に向けての数量回復とブランディング強化に向け、販促施策を拡大させたことにより、計画を下回る見込み

【乳製品・水産とエキス・一次加工品】 1億円

- 乳製品：チーズの価格改定等で計画を上回る見込み

2023年3月期通期計画 事業利益260億円

利益計画 増減要因分析

(単位：億円)

	下期			通期		
	2Q見込	3Q見込	差異	2Q見込	3Q見込	差異
国産牛・豚事業	△1	△8	△7	△4	△10	△7
国産鶏事業	10	△7	△17	△11	△28	△17
輸入食肉事業	△6	△52	△46	△27	△72	△46
フード販売	14	18	3	28	31	3
DX費用	△6	△5	1	△15	△14	1
その他	△2	△6	△4	3	△2	△4
合計	10	△60	△70	△26	△96	△70

通期 利益計画差増減要因分析

【国産牛・豚事業】 △7億円

生産部門：飼料の価格交渉や生産性改善を継続するが、
生産コスト上昇の影響を受け計画を下回る見込み

荷受：社外調達強化で調達量を確保し計画を上回る見込み

【国産鶏事業】 △17億円

生産部門：疾病対策の徹底と生産量の回復を図るが、
鳥インフルエンザの影響が残り計画を下回る見込み

荷受：20周年を迎えた桜姫の販売や、社外調達強化で収益拡大を図るが、市中在庫逼迫で調達価格が上昇し計画を下回る見込み

【輸入食肉事業】 △46億円

牛・豚・鶏：早期の適正価格在庫への転換を図るが、需要の減退により
高コストの食肉在庫販売が4Qまで続き、計画を下回る見込み

【フード販売】 3億円

チャネル別の取組みを強化し、計画を上回る見込み

量販チャネル：輸入食肉販売量は減少も、地域産商品や既存・新規の
ブランド食肉の提案強化により国産食肉の販売を拡大

外食チャネル：業態別の分析・提案の強化により販売を拡大

エリア開拓のための新規拠点を設置

4. 2023年3月期計画 海外事業本部

2023年3月期通期計画 事業利益△50億円

利益計画 増減要因分析

(単位：億円)

	下期			通期		
	2Q見込	3Q見込	差異	2Q見込	3Q見込	差異
豪州	△12	△58	△46	△23	△69	△46
オーストラリア	△12	△42	△30	△16	△45	△30
ウルグアイ	0	△16	△16	△7	△23	△16
米州	11	10	△1	8	8	△1
アジア・欧州	△4	△9	△5	△6	△11	△5
その他	△2	△1	1	△3	△2	1
合計	△8	△58	△51	△23	△74	△51

事業利益計画

(単位：億円)

	下期			通期		
	2Q見込	3Q見込	差異	2Q見込	3Q見込	差異
豪州	9	△38	△46	3	△43	△46
オーストラリア	6	△24	△30	15	△15	△30
ウルグアイ	2	△14	△16	△12	△28	△16
米州	16	16	△1	20	20	△1
アジア・欧州	△8	△13	△5	△11	△16	△5
その他	△7	△6	1	△12	△12	1
合計	10	△41	△51	1	△50	△51

通期 利益計画前年差増減要因分析

【豪州事業】 △46億円

(オーストラリア) △30億円

需給バランスを見極めた適正な生産体制で収益の改善を進めるが、軟調な輸出販売価格が収益を圧迫する見込み

(ウルグアイ) △16億円

生産性の改善を進めていくが、軟調な輸出販売価格で収益が圧迫される見込み

【米州事業】 △1億円

加工品の販売エリア拡大と収益性の改善が進み見込み通り

【アジア・欧州事業】 △5億円

(トルコ)

価格転嫁を進め飼料内容の見直しで生産コストの低減を図るが、リラ安、飼料価格・燃料価格の高騰が継続し計画を下回る見込み

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

1. 2022年3月期連結業績概要及び2023年3月期計画

(単位：百万円、%)

	22年3月期実績			23年3月期計画					
	3Q累計実績	4Q実績	通期実績	3Q累計実績	増減率 (%)	4Q見込	増減率 (%)	通期計画	増減率 (%)
① 売上高	896,129	278,260	1,174,389	986,103	10.0	283,897	2.0	1,270,000	8.1
② 売上原価	736,638	237,723	974,361	845,817	14.8	239,183	0.6	1,085,000	11.4
売上総利益	159,491	40,537	200,028	140,286	△ 12.0	44,714	10.3	185,000	△ 7.5
売上総利益率	17.8%	14.6%	17.0%	14.2%	-	15.8%	-	14.6%	-
③ 販売費及び一般管理費	115,377	42,573	157,950	124,262	7.7	45,738	7.4	170,000	7.6
その他の収益・費用	22	2,033	2,055	5,361	-	△ 2,361	-	3,000	-
金融収益・費用	△ 1,188	△ 603	△ 1,791	608	-	△ 108	-	500	-
持分法による投資損益	6,161	2,863	9,024	3,181	△ 48.4	319	△ 88.9	3,500	△ 61.2
税引前利益	49,109	2,257	51,366	25,174	△ 48.7	△ 3,174	-	22,000	△ 57.2
法人所得税費用	12,758	△ 90	12,668	5,380	△ 57.8	△ 880	-	4,500	△ 64.5
税率	26.0%	-	24.7%	21.4%	-	-	-	20.5%	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	36,747	11,302	48,049	19,219	△ 47.7	△ 2,219	-	17,000	△ 64.6
④ 営業利益①-②-③	44,114	△ 2,036	42,078	16,024	△ 63.7	△ 1,024	-	15,000	△ 64.4
⑤ 為替差損益	△ 1,654	△ 1,343	△ 2,997	△ 9,047	-	-	-	-	-
⑥ IFRSへの調整他	3,901	△ 4,647	△ 746	346	-	-	-	-	-
⑦ 非継続事業への調整	△ 2,263	△ 32	△ 2,295	-	-	-	-	-	-
事業利益④-⑤-⑥-⑦	44,130	3,986	48,116	24,725	△ 44.0	△ 2,725	-	22,000	△ 54.3

※ 前期の事業利益は、株式譲渡したマリノフーズ株式会社及び同社の子会社などに関連する水産事業の実績値が含まれた金額を表示しております。

2. 2022年3月期品種別売上高実績及び2023年3月期計画

(単位：百万円、%)

	22年3月期実績			23年3月期計画								
	3Q累計実績	4Q実績	通期実績	3Q累計実績	増減率	数量伸長率	4Q計画	増減率	数量伸長率	通期計画	増減率	数量伸長率
ハム・ソーセージ	102,663	28,484	131,147	101,502	△ 1.1	△ 3.0	28,498	0.0	△ 5.5	130,000	△ 0.9	△ 3.6
加工食品	170,710	54,266	224,976	179,350	5.1	△ 4.6	55,650	2.6	△ 8.6	235,000	4.5	△ 5.5
食肉	549,662	173,181	722,843	622,515	13.3	2.1	176,485	1.9	△ 0.3	799,000	10.5	1.5
牛肉	225,719	68,189	293,908	262,416	16.3	8.0	67,584	△ 0.9	4.1	330,000	12.3	7.2
豚肉	174,273	56,489	230,762	189,863	8.9	2.5	58,137	2.9	0.0	248,000	7.5	1.9
鶏肉	135,062	44,487	179,549	155,282	15.0	△ 1.4	46,718	5.0	△ 2.4	202,000	12.5	△ 1.7
その他食肉	14,608	4,016	18,624	14,954	2.4	1.4	4,046	0.7	△ 5.2	19,000	2.0	0.1
乳製品	26,002	9,212	35,214	27,533	5.9	△ 6.2	9,467	2.8	△ 5.3	37,000	5.1	△ 6.0
その他(水産含む)	47,092	13,117	60,209	55,203	17.2	—	13,797	5.2	—	69,000	14.6	—
合計	896,129	278,260	1,174,389	986,103	10.0	—	283,897	2.0	—	1,270,000	8.1	—

※品種別の売上高はセグメント合計での算出となるため、セグメント売上高とは合致致しません

※非継続事業(マリンフーズ)を除く実績

3. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

	22年3月期	23年3月期		
	期末	第3四半期	対前期末増減率(%)	対前期末増減額
資産合計	909,213	984,219	8.2	75,006
負債合計	419,659	480,833	14.6	61,174
親会社の所有者に帰属する持分	479,069	492,669	2.8	13,600
非支配持分	10,485	10,717	2.2	232
資本合計	489,554	503,386	2.8	13,832

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、%)

	22年3月期	23年3月期		
	第3四半期累計	第3四半期累計	対前年増減額	通期計画
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,293	△ 29,754	△ 24,461	29,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 30,449	△ 30,932	△ 483	△ 75,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,695	37,956	26,261	32,400

設備投資額、減価償却費

(単位：百万円、%)

	22年3月期	23年3月期			通期計画
	第3四半期累計	第3四半期累計	対前年増減率(%)	対前年増減額	
設備投資額	44,167	47,305	7.1	3,138	76,800
加工事業本部	6,833	5,376	△ 21.3	△ 1,457	12,260
食肉事業本部	11,132	12,409	11.5	1,277	19,900
海外事業本部	2,137	2,483	16.2	346	8,630
球団	15,321	18,109	18.2	2,788	21,670
その他	8,744	8,928	2.1	184	14,340
減価償却費	27,057	28,313	4.6	1,256	38,700

主な増減要因

①資産合計

季節要因等で営業債権608億円増加、および棚卸資産277億円増加等

②営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期利益251億円、減価償却費及び償却費284億円等があったが、営業債権及びその他の債権の増加608億円、棚卸資産の増加275億円、法人所得税の支払額133億円等により、298億円の純キャッシュ減となった。

③投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、短期貸付金の減少87億円等があったが、固定資産等の取得460億円等により、309億円の純キャッシュ減となった。

④財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、現金配当104億円、借入債務の返済713億円等があったが、短期借入金の増加128億円、借入債務による調達1,065億円等により、380億円の純キャッシュ増となった。

CONTENTS

1. 2023年3月期 実績／セグメント別の実績

- 6. 実績ハイライト① 2023年3月期3Q実績
- 7. 実績ハイライト② セグメント別事業利益実績
- 9. セグメント情報 加工事業本部
- 11.セグメント情報 食肉事業本部
- 13.セグメント情報 海外事業本部

2. 2023年3月期 計画

- 16. 計画ハイライト
- 19. 2023年3月期計画 加工事業本部
- 20. 2023年3月期計画 食肉事業本部
- 21. 2023年3月期計画 海外事業本部

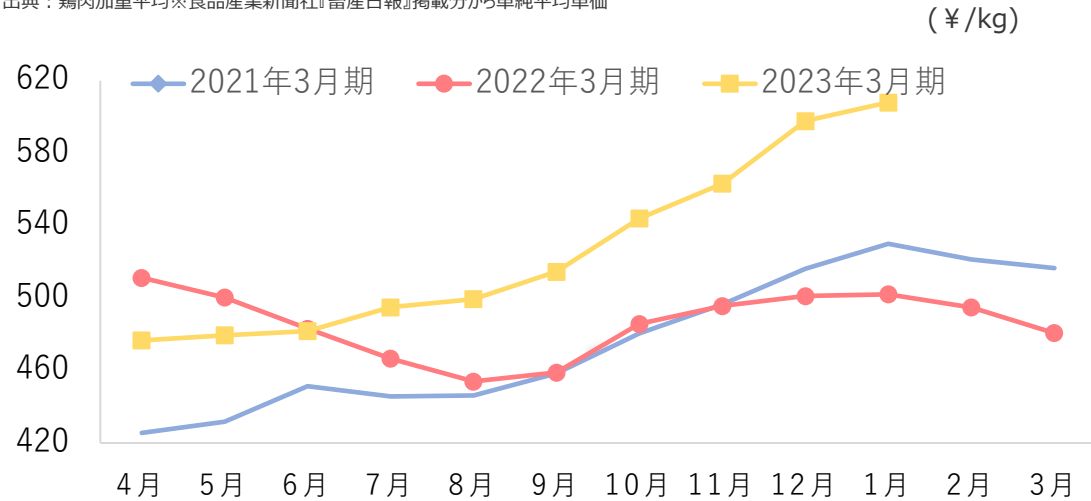
3. 2023年3月期 主な財務データ／参考資料

- 23. 2022年3月期連結業績概要及び
2023年3月期計画
- 24. 2022年3月期品種別売上高実績及び
2023年3月期計画
- 25. 連結貸借対照表、設備投資額、減価償却費及び
連結キャッシュ・フロー計算書
- 27. 外部環境／市況

4. 外部環境 市況①

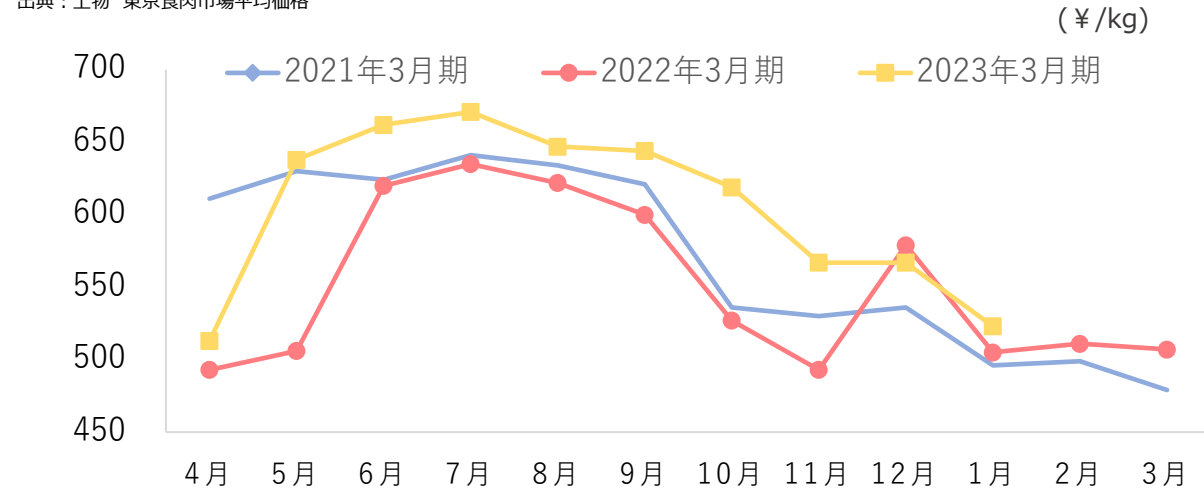
【国産鶏肉相場】

出典：鶏肉加重平均※食品産業新聞社『畜産日報』掲載分から単純平均単価



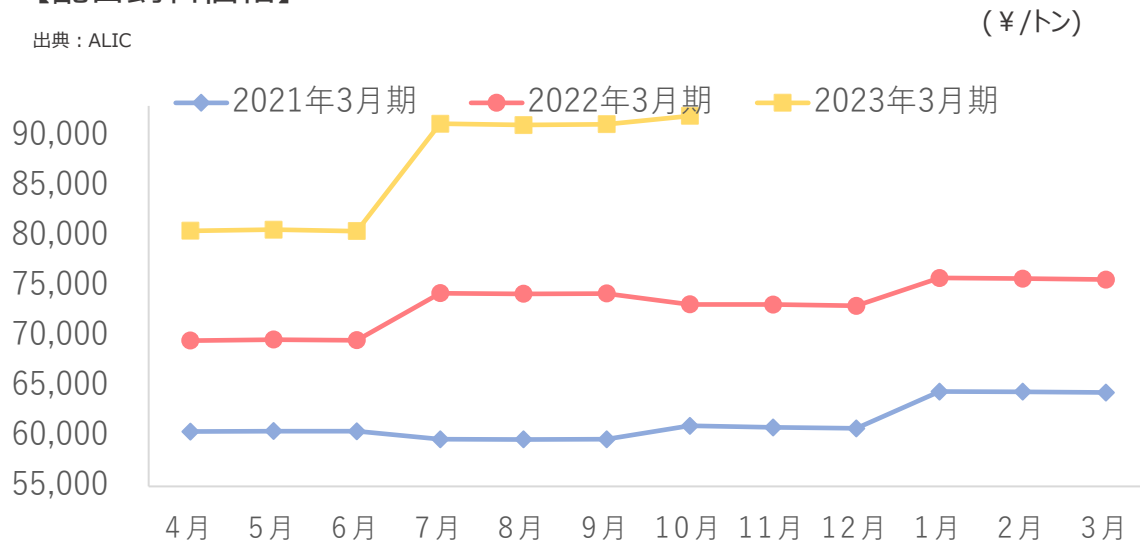
【豚肉枝肉卸売価格】

出典：上物 東京食肉市場平均価格



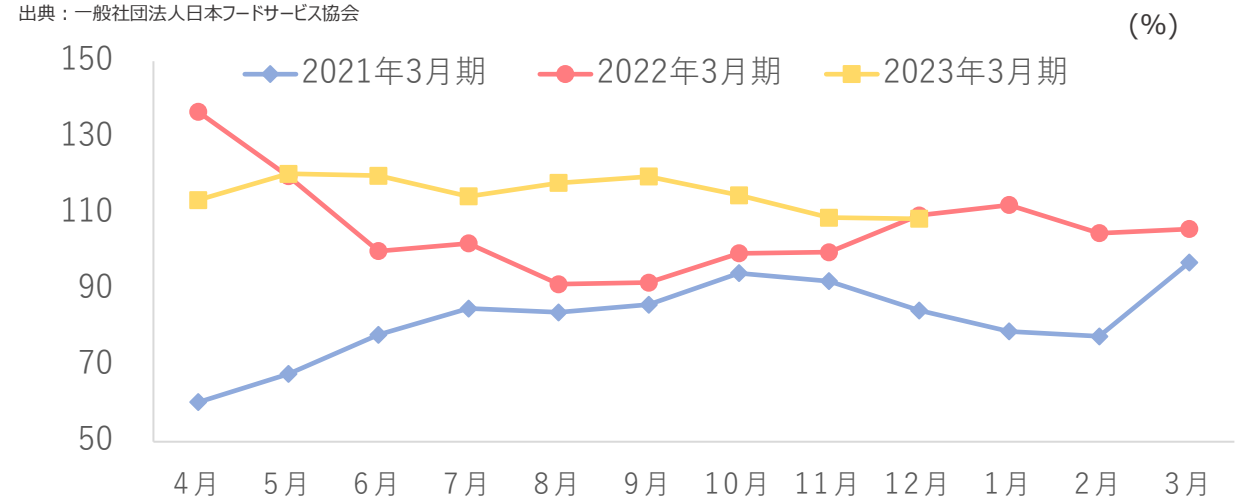
【配合飼料価格】

出典：ALIC



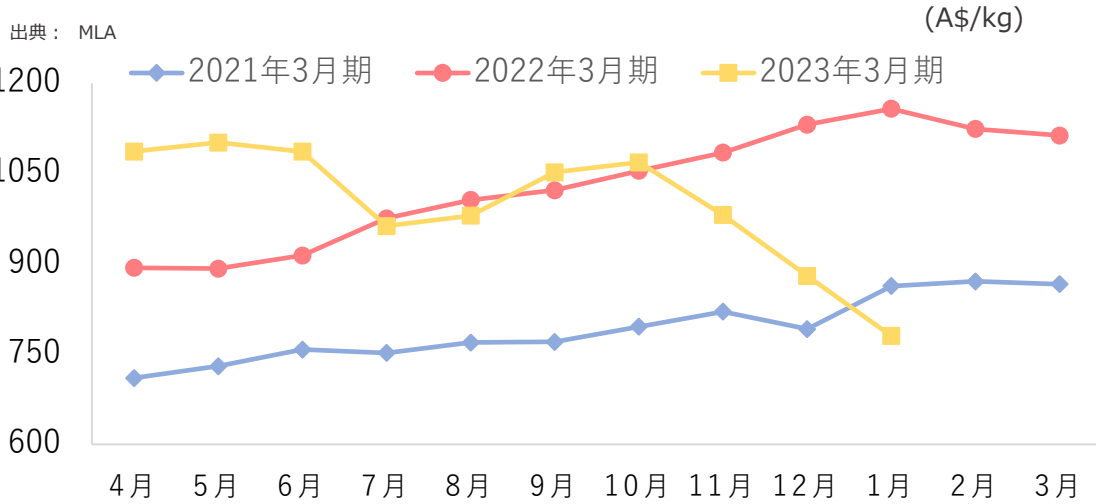
【外食売上高前年同月比】

出典：一般社団法人日本フードサービス協会

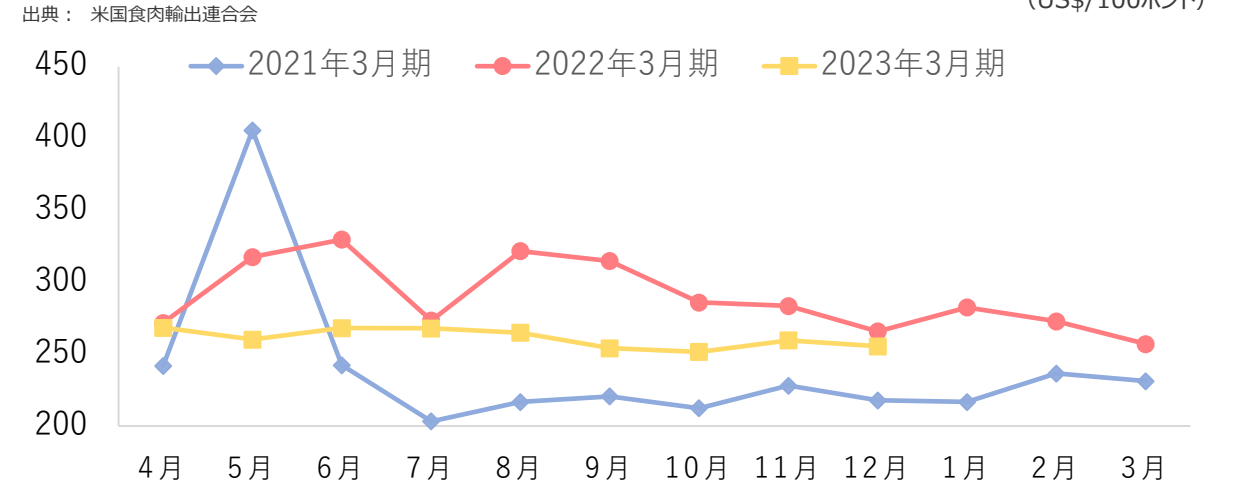


5. 外部環境 市況②

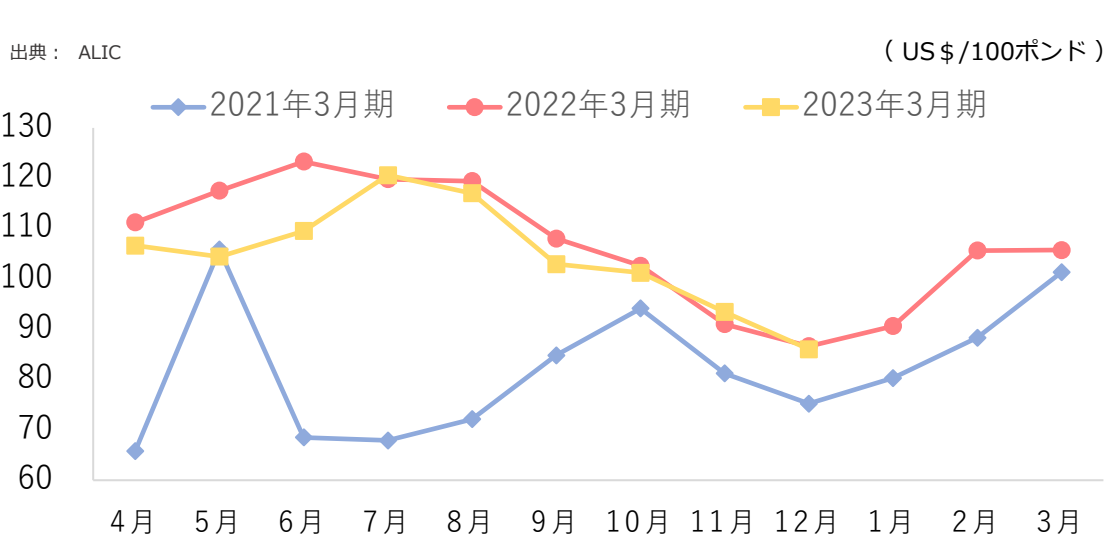
【豪州産 若齢牛価格(生産者販売価格)】



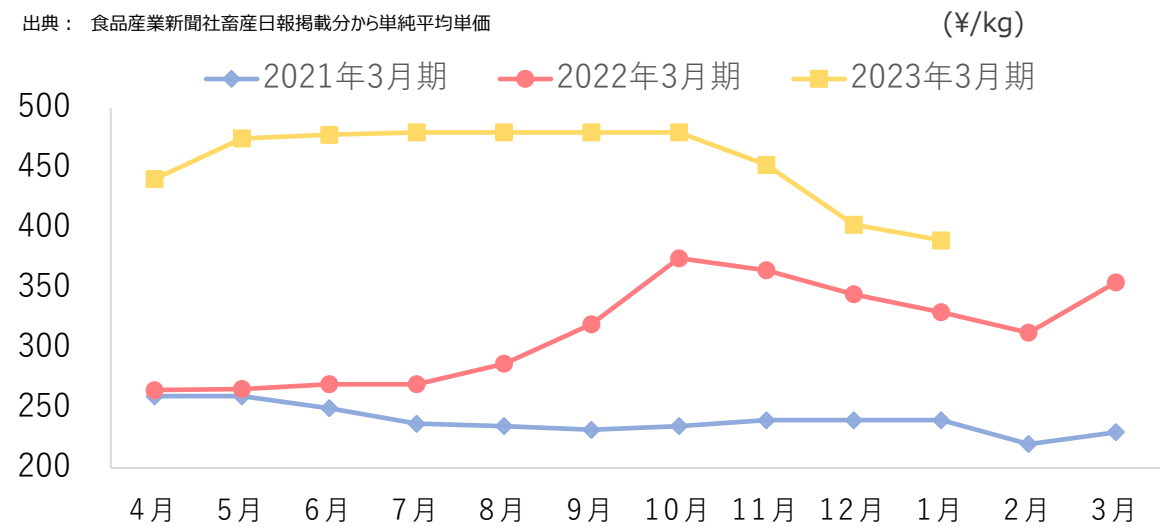
【米国産牛肉 カットアウトバリュー(卸売指標価格)】



【米国産 豚肉カットアウトバリュー 枝肉ベース】



【ブラジル産もも肉価格】



お問合せ先

〒141-6013 東京都品川区大崎2-1-1

Think Park Tower

日本ハム株式会社 広報IR部

電話：03-4555-8024

メールアドレス：nhfoods.ir@nipponham.co.jp

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。従って、これら業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え頂きますようお願いいたします。また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。